

ICCベルリンからCityCubeへ～受け継がれる「成功の資産」



ICC Berlinのメインエントランス

1979年の開業以来、ベルリンのランドマークとして親しまれてきた「ベルリン国際会議場(ICC Berlin = The International Congress Center Berlin)」が、2014年からリノベーションのため一時休館となり、その役目を今年3月オープンの新施設「CityCube Berlin」にバトンタッチした。

1980年代に先進各国でコンベンションビジネスが活発化し、展示会議設備の建設ラッシュが巻き起こった頃から、世界で最も大規模で洗練された設備を有するICC Berlinは「Mother of Conference Center」として多くの展示会場の模範とされてきた。

ICC Berlinはその未来的な外観から“スペースシップ”という愛称で親しまれてきた。建築関連の出版物などから「70年代スペースエージ建築の代表作」として賞賛されたデザインは、ベルリン出身の建築家であるRalf Schüler氏とUrsulina Schüler-Witte氏が手がけたものだ。



館内の未来的なデザインのオブジェ

2013年の夏、休館前の館内をもう一度ゆっくりと時間をかけて歩いてみた。重厚な外壁や構造体など基幹部とは対称的に、隅々まで計算し尽くされた緻密でスタイリッシュな内装デザインとのコンビネーションがこの建物の醍醐味だと思う。この場所に足を踏み入れる度に、まるで自分がマイクロの世界の住人になって、精巧な機械仕掛けの腕時計の中を歩いているような気分になる。



206名がサークル状に着席してディベートが可能。同時通訳設備も充実する「Hall 6」

ICC Berlinを代表するいくつかのホールを紹介しよう。まずは206名が着席できるシートがサークル状に配置されている「ホール6」だ。80年～90年代に制作されたSF映画の舞台に、宇宙船の司令室として登場する機会も多かったという、アーティストたちにインスピレーションを与えてきた部屋だ。「スペースシップ」の愛称の由来をここにも見つけることができる。

ICC Berlinの巨大さを物語る「ホール2」は、世界の展示会場でも珍しい可変型の大型ホールだ。1,480人の観衆を収容できるメイン座席はリフト式になっていて、天井まで吊り上げればその下には2,500平方メートルの広大なスペースが表れる。このホールを使った名車ブランドの新車発表会や、最大3,500人のゲストを集めた大規模なイベントが開かれた実績もある。



1,480名が着席できる観客スタンドがリフトアップして天井に姿を変える、ユニークな可変式の仕掛けを持つ「Hall 2」

2013年までにICC Berlinで開催されたイベントの数は約7,000件にも昇り、述べ来場者数はおよそ600万人。ベルリン市外からの来場者は260万人に到達した。コンサートなどエンターテインメント系のイベントだけを数えても約1,700件の実績があり、480万人を超える来場者を集めてきた。毎年約10億ユーロの経済効果をベルリン市にもたらしたと言われるICC Berlinは、地域経済の活性化と雇用創出にも大きく貢献してきた。

コンベンションビジネスの先端を走り続けてきたICC Berlinの使命は、今春からCityCube Berlinに無事受け継がれた。2つの階層に約12,000平方メートルの広大な展示・会議スペースを構えるCityCube Berlinの建築デザインは、ドイツ・ドレスデンのCODE UNIQUE ARCHITEKTEN社によるものだ。同社代表のVolker Giezek氏は「魅力的な外観と内部の優れた機能性を兼備した、ベルリンの都市計画においても大変重要な意味を持つ建物が完成した」とコメントしている。

CityCube Berlinの開館後のスケジュールは、ITUC (International Trade Union Confederation)の国際会議をはじめとするカンファレンスや、9月5日に始まる世界最大のエレクトロニクスショー「IFA2014」など数多くのグローバルイベントで既に埋め尽くされている。それどころか2022年までのブッキングも入っているという盛況ぶりだ。ICC Berlinの成功はCityCube Berlinの歴史にもつながっている。

<フリーライター:山本 敦>



【取材協力】
Messe Berlin社
International Business Development
Erich Hoffmann氏